

大会の挨拶

早稲田大学バドミントン部長

理工学部教授 岩片秀雄

本年は早稲田大学にバドミントン部が創立されて10周年になる。慶応とは10年の開きがあり、他の諸大学に較べても部の創設はやや遅かったが、部員各自の努力と協力とによって、今や健全な学生スポーツとしてのバドミントンの発展に寄与すると共に、これを育成する自信と抱負とに燃えている。それも良き先輩としての慶応があればこそであろう。学生スポーツの精神は、外岡早大野球部長のいわれるように、勝負を争って勝負にとらわれず、技術を練磨して技術におぼれないことであるが、その調和を如何に保つかが大切な処であろう。早慶定期戦も、勝負をつけることのみを目的として一堂に会するのではなく、学生スポーツの精神の触れ合いの場として、その意義の大きさがあると思う。

慶応義塾大学バドミントン部長

商学部教授 白石孝

ここに第9回慶早定期戦を迎え、日吉記念館に両校のOBと学生諸君が相集い独特の和やかな雰囲気の中で楽しくお互いの技を競う事は真に喜びにたえません。

常にこの慶早戦においては、バドミントンの真髄を發揮し両校相互に親しみと尊敬を持って交流し合う絶好の機会を持つ事だと思えます。今回も更にその意義を高め、ひいては両校で大学バドミントンの精神と技術水準の向上に寄与したいものと考えます。

なお、早稲田大学の部員諸君が我々の好敵手として覇を競う日の来る事を互いに期待してやみません。

明年はこの定期戦も丁度10回を迎える事になりますので、一つの発展への一時期だと思いますし、今から共に飛躍への基礎を固めて行こうではありませんか……

終りに両校OB並び学生諸君の奮闘を御祈り致します。

今年もはやくも早慶定期戦の時期がやって来た。ついこの間早稲田大学において行われた様な気がするが、あれから早くも一年。

さて、我が部も去る6月に第10回目の誕生日を迎え、慶応大学はじめ各大学の方々多数にお集まり願ひ、ささやかなお祝ひも開かせて戴いたが、これも皆様の御指導、御援助のお蔭でやっと到達したものである。

かくて迎えた今回の定期戦は、現役OB共に張り切っており、ぜひ共今迄の御恩に報いんものとその意気込みはさかんである。

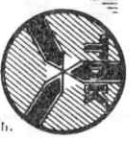
私としても今回は我が部の一歩前進のきっかけとして、慶応大学に対し十分な試合ができるよう心がけている次第だ。

ともあれ現役はもちろんの事、OB諸君も自分のもてるカーバいを発揮し、充実した試合が展開され、他のスポーツにおける早慶定期戦に比して恥ない立派な成果を収められるよう期待しているものである。

最後に今年の当番校慶応大学の方々に御礼を述べると同時に、今後ともよろしく御願ひする次第である。

量質共に最高水準をゆく

ガラスカーボン	電機用プラシ	カーバイド
黒鉛繊維	特殊炭素製品	溶解アセチレン
黒鉛電極	原子炉用黒鉛	高純度シリコン
炭素煉瓦	トカーボンプラック	



東海電極

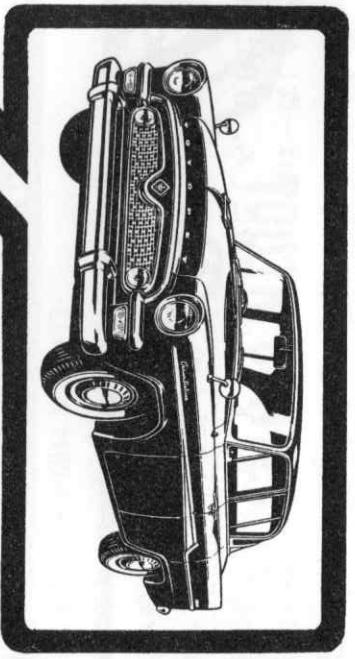
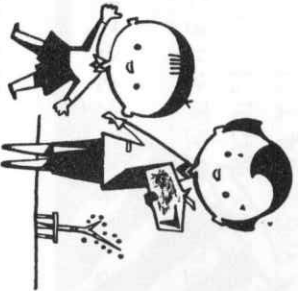
本社 東京都中央区港町三 電話 築地 (551) 3191-8

夏の合宿練習も終り秋風と共に慶早定期戦が行われる。この定期戦は秋のシーズンの戦力を計るテストケースとして、又、来年度の新オーダー編成の資料として重要な意味が含まれている。

幸いにして昨年までは慶応の連勝で終ってはいるが、最近の早稲田の充実ぶりには目を見はるものがあり、彼我の実力も接近していて、内容の豊富な面白い試合が多く見られるものと期待している。

両校とも日頃の練習の成果を大いに発揮して、母校の名誉にかけて頑張ってもらいたい。

私もOBメンバーとして出場するが、久し振りで握るラケットの味は格別で、古い仲間と現役時代の話に花を咲かせるのも楽しみなものである。近い将来この定期戦が日本バドミントン界において最高のゲームであると衆目される様私共関係者一同は努力し、期待している。両校の健闘に惜しみなく拍手を送ろう。



セラウナス・90馬力・最高時速140キロ・997,000円
スタンダード・80馬力・最高時速135キロ・797,000円

トヨタ
クラウン

1900

ご家庭に会社に営業用に圧倒的なご愛用を
いただいている……トヨペット・クラウン
お車のご相談は…



神奈川トヨタ自動車
本社 横浜市神奈川区栄町 電(44)8051~8

第9回早慶定期戦に寄せて

早稲田大学主将
法学部4年 小川 昌之

「早慶戦」……「けいそう戦」ともいう様ですが、世間一般に類しまれ呼び馴らされている「早慶戦」と敢て言わせていただきます。

この「早慶戦」を私が迎えるのも4回目、そして今年は現役として最後のチャンスでもあります。夏の休みも終り我がチームもこれから秋にかけてのシーズンへ踏み出すその第一歩をこの「早慶戦」にかけています。そして、このシーズンにおける我部の運命もこの一戦に……といっても過言ではないでしょう。休暇中のトレーニング、そして合宿、これ全て「早慶戦」に備えてである。

今年で我部も創立10周年を迎えました。

“七転び八起き”人間もひとりだからする迄には幾度かころび、つまづき、そしてその度に成長していきます。「早慶戦」も9回目、過去8回早稲田は転びっぱなしでした。だがよくよしまい。転がるうとして転がったんじゃないんだ、起きようとして転がったんだ。

第9回早慶定期戦への我々の目標は“八転び一と起き”である。早稲田の総勢をもって、逆二ぶつかっかっていきますぞ「慶応さん、いい切り叩いてごらんさい、いい音がしたらお慰み。

慶応義塾大学主将
法学部4年 中村 智

ここに、早くも入部以来4度目の慶早戦を迎える事に相成りました。過去8回の試合は塾の連勝ではありますが、二部に落ちたとはいえ、早稲田大学は今年で創部10周年を迎え、名実共に充実して来ており、我々にとっても正に気のゆるせない好敵手であります。我々現役選手は奈良での厳しい合宿、暑さの中での猛練習によって、この伝統ある慶早戦を立派に斗い抜き、過去に礎き上げて下さったOB諸兄の輝かしい記録に我々は挑戦したいと思っております。

早稲田大学は今春のリーグ戦において二部に転落したという事は、我々にとって大変残念な事があります。一日も早く一部昇格のために努力され、我々は共にこの慶早定期戦優勝校がリーグ戦における優勝につながるという処まで盛り上げていこうではありませんか。この慶早定期戦も来年で10回目を迎える事になり、一つの発展段階への足掛りとして今後増々発展していかな事を祈っております。

早稲田大学の今後の奮闘に期待しております。

